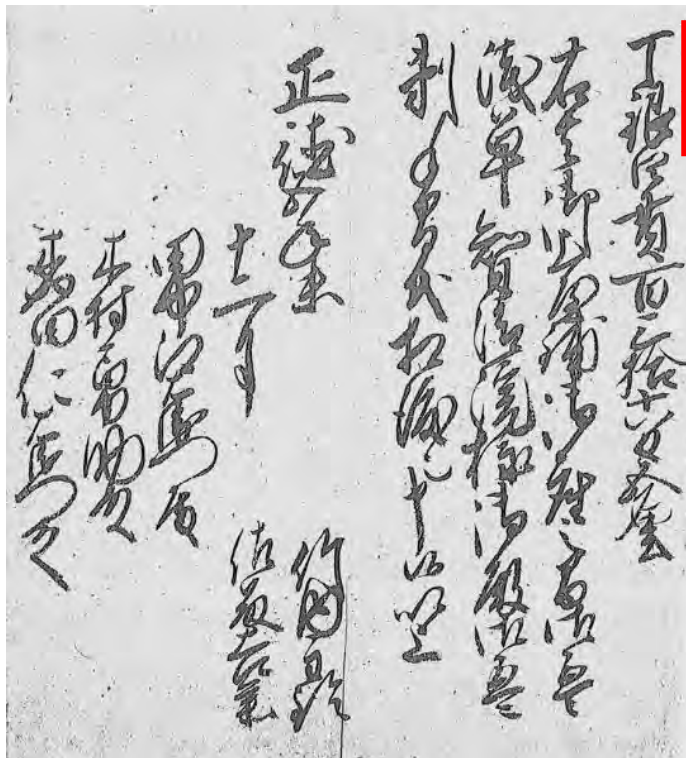


こもんじょ 古文書とあそぼう！

お金は金貨や銭だけじゃない？！ 支払い代金書付編

この文書は、江戸時代の^{えどじだい} 金^{きん}貨^かや銭^{ぜに}だけじゃない？！^{たみ} 支払い代金書付編^{しはら かきつけ}
文書の最初には、支払われたお金の種類と金額が書かれています。前回の「古文書とあそぼう！」では金貨と銭貨が出てきましたが、今回はそのどちらでもありません！さて、いったいどんなお金が使われていたのでしょうか？



これが今回のお金の種類です。
なんて書いてあるかな？

ヒント：2文字目に注目！

ある金属が書かれているよ！



金貨は「金」、銭貨は「銅」。
あとひとつは何だろう？



右



左

「衛」の字が小さくてわかりづらいたと思いますが、古文書の文字はよく使われるものほどくずして書かれることが多いのです。
ちなみに、「〇左衛門」「〇ざえもん」もいます。右と左を見分けるのはちょっと難しいですが、たくさん古文書を見て目を慣らしましょう！



江右衛門



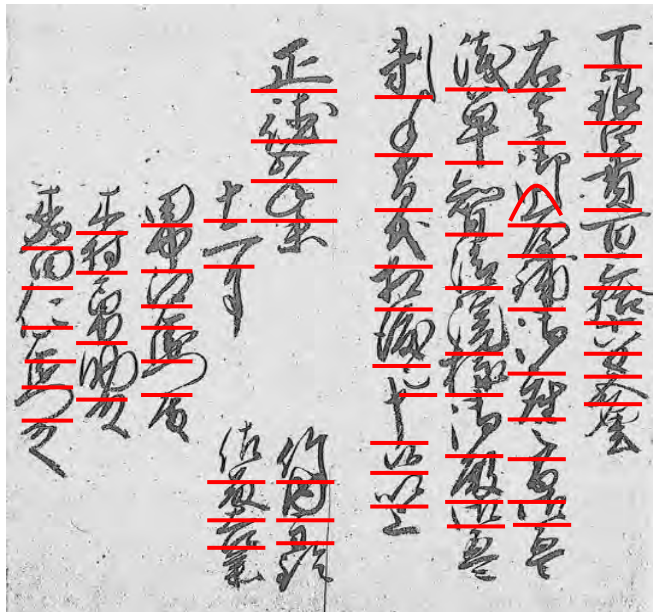
仁右衛門

ぼく、〇〇えもん！
江戸時代の古文書には「〇〇衛門」という名前がたくさん出てきます。今回の文書には「江右衛門」（こうえもん）と「仁右衛門」（じんえもん）という名前が書かれています。

古文書 まめ知識

こもんじょ 古文書とあそぼう！

古文書を読んでみよう！



丁銀四貫百三拾六匁五厘
右者御上屋鋪御座之間御置
浅草智清院様御殿御置
刺手間代相渡シ申候以上
正徳五年未 竹内主鈴
十二月 佐藤吉衛
田中江右衛門殿
木村勇助殿
森田仁右衛門殿

この文書に書かれていた
お金は「**丁銀**」！
銀でできたお金だよ！



銀貨はどうやって使うの？

「1枚=1両」、「1枚=1文」というように
枚数で取り引きができる金貨や銭貨に対し、
銀貨は重さをはかって使う貨幣でした。

「丁銀」は1つが大きいので、細かい調整には
「**豆板銀**」 という小さな銀貨を使いました。

この文書に書いてある「貫」「匁」「厘」は
重さの単位で、1貫=1,000匁=100,000厘です。

銀貨の重さの単位と重量

1貫…およそ 3,750g (3.75kg)
1匁 …およそ 3.75 g
1分(歩)^ぶ…およそ 0.375 g
1厘(里)^り…およそ 0.0375 g

ちょっと深ぼり！

丁銀を用意しよう！



=〇枚？

4貫136匁5厘を用意するとしたら、丁銀は何枚
必要になるのでしょうか？

丁銀はものによって重さがまちまちですが、
だいたい36匁4分(約136g)くらいの重さです*。

4貫136匁5厘は約15,510g(約15.5kg)。
つまり、丁銀114枚分になります。

スイカ3玉と同じくらいの重さ！
重たいですね…

※正徳丁銀の重さの平均です。

ちょっと深ぼり！

古文書の内容を見てみよう！

この文書は正徳5(1715)年のもので、**量刺し**
(量をつくること)の費用を支払ったことが書かれ
ています。

「**鋪**」は「**敷**」と同じ意味で使う漢字なので、上の
2文字と合わせて「**上屋敷**」(=大名屋敷のひとつ)のことです。

「**御殿**」は高貴な人の家を指す言葉なので、ど
ちらも広い家だったことが想像できます。

↓この古文書が掲載されている貨幣博物館のページはこちら↓

https://www.imes.boj.or.jp/cm/research/komonjo/001005/008/909966_1/html/

日本銀行貨幣研究館
貨幣博物館

掲載している文章及び図版・イラストの無断転載・利用を固く禁じます。